

## 由比宿・西伊豆土肥温泉の旅

大西 千恵 (昭和三十一年卒)

「ひさしぶりじゃね〜」「元氣しよったア〜！」12年3月9日朝、東京丸の内。次々顔が会うと、伊予弁全開。駅前バス発着場はすっかりゆる〜い雰囲気。

やはり「温泉にでも浸かって、一晩ゆつくり過ごしたい」と、八起会今年貸し切りバスの一泊旅行。お目当ては由比の桜エビといちご狩り。やっぱり、食べるものに引かれるんよねエ・・・もちろん、温泉も楽しみヨオ。

昔の少年少女十三人を乗せて、バスは予定通り発車。後部サロンシートでは、すぐに高齢・ではなく恒例の宴会が始まる。グラス片手に談論風発、変わらず元氣でいいですね。

「バスの色をよく覚えておいてください」との運転手さんのご注意をよく聞き、サービスイリアで一息入れつつ、迷子もなく無事待望の昼食会場、由比宿「桜えび館」に到着。揚げたてアツアツ、サクサクのかき揚げを期待していた向きには、かなり残念。その無念を慰めあいながらお土産を吟味。

降り出した雨は止みそうにないが、雨の宿場もしっとりとして落ち着いて良いものだ。由比宿は東海道五十二次の日本橋から十六番目の宿場とのこと。本陣跡の大きな門(後に作られ

た?)をくぐるとそこは広重美術館。「美人画の魅力」とのテーマで展示された広重の美人画を堪能する。髪型模型や装身具も展示されていて、その一様ではない髪型、繊細な髪飾りには「は〜知らなかったわ〜」と驚くばかり。版画の技術もさることながら、江戸の情緒、庶民の暮らしぶりもしっかりと伝わり、日本人のこころの豊かさを改めて感じさせられる。

今夜の宿は「桂川シーサイドホテル」。駿河湾に面したオーシャンビューの温泉は最高!夕食でたっぷり海の幸を堪能した後は、お楽しみのお部屋での二次会。かなりアルコールも入り、青春時代のあの時のこと先生の噂話、いつもながらの話題で盛り上がる。それは毎度変わらないけれど、なんと今回は十時過ぎにはお開き。みなさんやっぱり夜は早寝になったか。無理せず元氣が一番。明日に備えましょう。

二日目は雨も上がって、まずまずの旅日和。土肥から西伊豆へ。戸田の岬の「深海生物館」ちよつと乙女チックに童宮城のイメージが先行した身には、学校の理科室のような雰囲気。「・・・ナンジャ、コレ?」・・・でも、タカアシガニの大きさに眼を見張り深海魚のとぼけた顔を眺めるうち、その素朴なジオラマやホルマリン漬けのちよつと不気味な生物の行列になんとも親しみを覚えレトロな気分。安政東海地震の資料も興味深いものがあつた。

次の「いちご狩り」「はいはい、十三名様こちらにどうぞ。三十分、お腹いっぱい食べてください」と、プラスチックのバックを渡されハウスの中へ。へたの山を築いたベテラン「赤いとこだけ食べたらええんよ」。際まできれいに食べていた初心者私、数はこなせず残念。「主人が好きなんよ」と駆け出していき、ビニール袋いっぱいをつくしを摘んできた人もありのおまけもつき、バスはひたすら東名道を通る。というこで、一泊二日の旅は今回も楽しく無事帰着。再会を約して解散。我々はいよいよ「後期高齢者」の仲間入りをするけれど、それぞれの今を大切に「好機」または「好奇」「好例」「高麗」と行きたいものと改めて思った次第。

